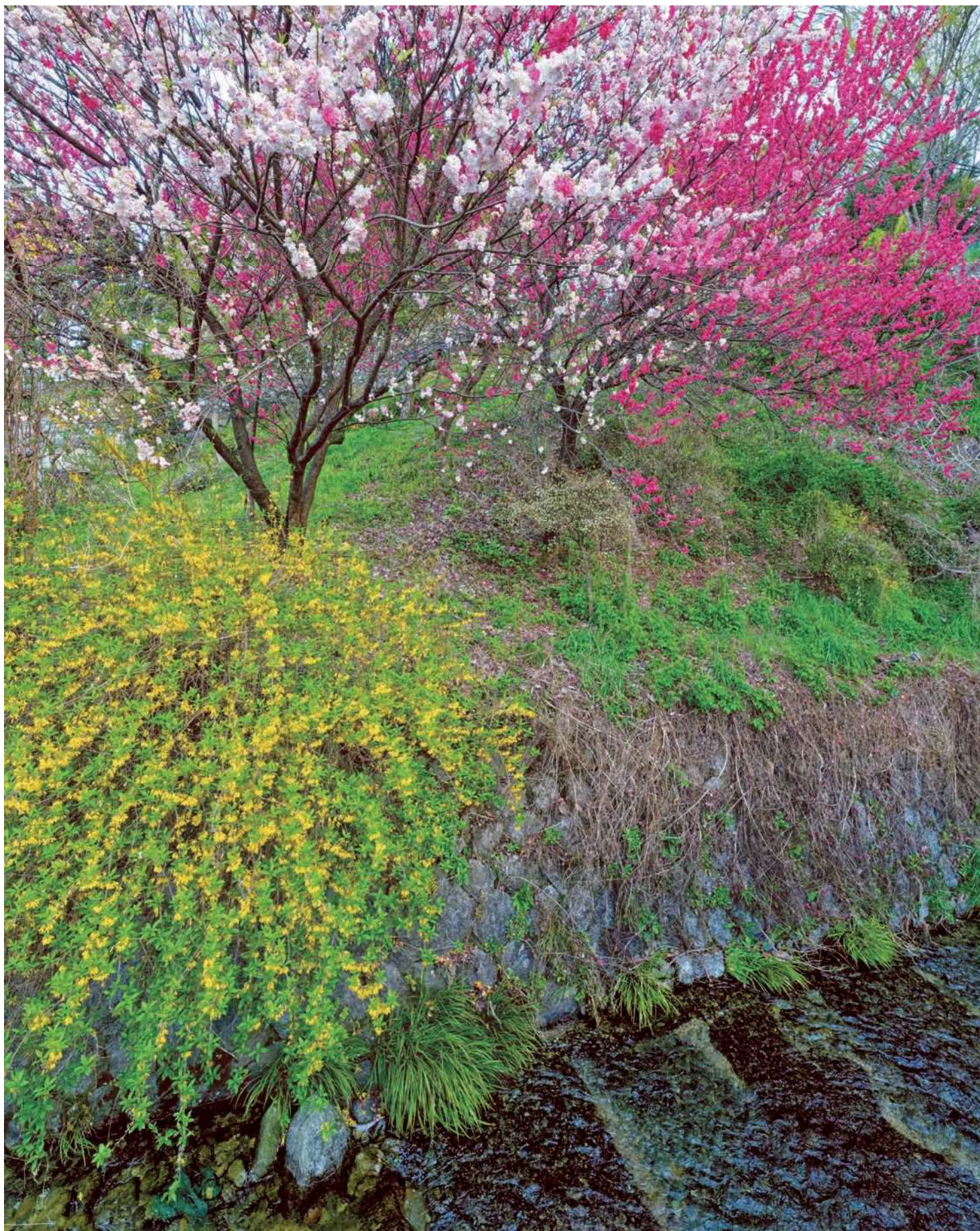




館報 まつかわ

松川町公民館報
第713号
令和5年4月15日

町の川 ④⑧ 唐沢川 (神護原神社下)

第58回 公民館研究集会

今、話したいことがある

～このコロナ禍で～



先月号に続き、ワールドカフェの中で出された意見を紹介します。

紹介しきれない程、多くの意見が出されました。今年度から停滞していた行事なども、いつきに動き出しそうです。

今年から再開される活動に、これらの意見を活かしていただければ幸いです。

飲み会について

*飲み会があつてこそというのがある。↓達成感につながる。

*飲み会の場でいいアイデアがでることもある。

*飲み会は若い人との交流の機会となり、大切。

*飲み会も、全体ではやりたくない人もいる。

*今の若い人は飲む人が少ないから飲み会をしなくてもいいと思う。

*前例踏襲ではなく、いらないところを省くということが必要。↓例えば祭り。祭りはやるが飲み会を少なく。最終的な飲み会だけに

して、会議も最小にしてやる。飲みがすべて悪いというわけではないが、いらない飲み会はなくしたほうがいい。

*飲みに行くことが悪いことになってしまった。

コロナについて

*5類に移行すれば各種行事を順次再開する予定。

*5月以降のことはコミュニケーションをとって考えていく。

*1年ほどやれば元に戻っていくと楽観視している。

*マスクもファッションの一部に。

*顔を隠していたい人も多い。コロナ後に、元に戻る心配。

*もとに戻ることがイメージできない。

*夏などの暑い時でもマスクが必要なので大変。

*コロナに感染する可能性が

あるのでいきたくても怖くて行けない(医療・福祉)。

*市町村ごとに感染者数を出してくれた時のほうが、今は細かく出ないので警戒心が薄れている。

子どもたちについて

*どんど焼き、おやす作り、お餅つき…いろいろ

思い出が残っている。いろんな思い出を残して繋いでいてほしい。

*部活の大会なども減って何のためにやっているかわからなくなった。

*地区の子ども会などを公民館で実施。公民館が集まる場所へ。

*子どもが集まってくれば大人も来る。

*子どもと大人との社会が出来る。それが社会教育。

*子どものほうが発想力がある。

その他

*コミュニケーションの取り方がかわってきている↓目的が同じものに集う傾向。

*オンライン会議で楽になりすぎてしまった面もある。

*店へ行けなくなったので、キャンプの人数が増えた。施設もコロナ前より増えた。

*コロナや機械の発達により人のつながりが減っている。

*職場でのコミュニケーションが少なくなった。

*コミュニケーションが少なくなった。



講演会

*まつかわ大学

①6月17日(土)

講師：玉置 妙憂
(看護師・僧侶)

演題

『生き方・逝き方に向き合う』



②日程調整中

講師：佐々木秀実
(シャンソン歌手)

演題

『未定』

～地域をつなぐ～

松川町
公民館今年度はこんなことを
予定しています

教育・講座

*地域を知る講座

①片桐松川ダムと生活水を知る
5月20日(土)②町の天然記念物
ツツサキヤマジノギク保全活動・観察会
保全活動日：5月28日(日)・8月19日(土)
10月7日(土)

観察会：10月14日(土)

③アカモズの繁殖報告会
7月8日(土)④武田信玄狼煙上げリレー
8月26日(土)⑤片桐宿・大島宿を巡る
9月23日(土)⑥松川町の歴史・昔の暮らし
年3回程予定

*人権教育講座

①若者・女性の政治参画

6月24日(土) サテライト会場

講師：能條 桃子

②あいとぴあフォーラム&

パープルリボンセミナー

11月18日(土) サテライト会場

講師：高尾 美穂



*男と女いきいき講座

①6月3日(土)

講師：茅野 理恵

演題：『発達特性により苦戦する
子どもの理解と対応』

体育活動

*スポーツ
フェスティバル

7月1日(土)

*第15回松川町
町民ゴルフ大会

7月30日(日)

*第38回
松川町駅伝大会

11月5日(日)



*小八郎登山

7月29日(土)

*トランポリン教室

8月 9日(水) } 子供
8月10日(木) }
8月11日(金) 親子*活き生き
ウォーキング6月8日(木)・7月2日(日)
8月5日(土)・9月17日(日)
10月8日(日)

*活き生きヨガ入門

10月22日(日)

文化活動

*人形劇

8月6日(日)



*第32回松川音楽祭

9月10日(日)

*まつかわ寄席

7月22日(土)

橘家圓十郎



*松川町文化祭

10月27日(金)
28日(土)
29日(日)

コロナ禍からの復活

今年の

卒園・卒業

入園・入学式から

新型コロナウイルス感染症に翻弄された3年間でしたが、この春町内の卒園、卒業式も在校生、保護者に見送られて行われたところもありました。形式も新しいかたちで短縮された中でありましたが厳粛におこなわれていました。3年間この光景を見る事がなく過ぎた分、感慨深いものでした。巣立つ子ども達、感謝を伝える側の子ども達、それぞれに心のこもった歌に胸が熱くなるものがありました。この式の姿こそが子どもたちも望んでいた姿だと思います。

入園、入学式においても以前のような姿に戻ってきていました。中学校の入学式では、新1年生は約60年ぶりに新しくなったジェンダーレスの制服姿での入学式となりました。

ワクワク、ドキドキ、ちょっぴり不安もあるかと思っています

が、新しい出会いがスタートしました。



松川北小学校
卒業式



大島保育園
卒園式



松川中学校
入学式

大洲七杵神社

春祭りから

大洲七杵神社は上新井に鎮座し、境内には本社の名の由来となった老杉の七本は高さが50メートルを超え、近郷に比類ない立派なものです。樹齢千年を超える七本の杉の樹は、今までに一度も病や落雷に遭わず、強い生命力と強運を持つ千年杉です。また社前には伊那谷一と伝わる石造りの大鳥居と、左右一対の石組の灯籠が拝殿を中心として見事な社殿の形勢をしています。コロナ蔓延前までは、この杉を一目見ようと県外からの参拝者も沢山訪れる人気のパワースポットでした。

獅子舞と囃子はおよそ280年前の江戸時代中期に始まっ



たと伝わっており此の地域では稀な伝統芸能で、おかめ踊りと獅子舞・花踊りと囃子がそれぞれ奏楽で奉納するのも特徴的です。毎年春季祭典では小学6年の女の子がおかめ踊り、小学3年の男の子が花踊りを奉納していましたが、平成31年の春季祭典以来コロナウイルス感染症の蔓延で、おかめ踊りと花踊りの奉納は中止しておりました。令和5年春季祭典では踊りの奉納を今年こそは復活させたいという思いから、年明け早々の1月5日から関係団体等をまわり、話をする中で皆様の温かいお言葉を頂き準備を進める事ができました。残念ながらおかめ踊りは児童が集まらず断念をしましたが、花踊りは7名の元気な男の子が集まってくれ3月13日から三週間、踊りの師匠のもとでみっちり練習に励

みました。コロナ以前はあらい商店街の各所で踊りの披露をして最後に神社境内で奉納をしていましたが、今回は七杵神社東側道路で演舞して境内で奉納を行いました。4年ぶりということゼロベースのスタートになり、関係者とも何度も打ち合わせをして色んなことを想定しながら進めるのは大変でした。しかし、満開の桜の下で花踊りの奉納ができたことは新たなスタートだと思いい、地域の伝統文化の継承と保存の大切さを改めて実感しました。

今回の春季祭典に際して、上新井区会・神社・当番自治会・関係団体等とはもとより区民の皆様方のご協力により盛大にお祭りができたことに感謝しております。

大洲七杵神社奉楽保存会

副会長 小島 慎司

コロナ禍の3年が経過し4年目の春、町内の春祭りの様子も様々、コロナ前に近付く形で獅子舞や花踊りなどが貢納された神社、役員による神事などの神社など様々でした。まだまだコロナ禍を心配しているように踏み切れない

おいでよ！資料館

えみりあや図書館にはよく行くけれど、資料館にはしばらく行っていないなあ、という方も多いのではないだろうか。松川町資料館は、誰にでもわかりやすく、親しみやすい歴史学習の場として平成4年に開館し、昨年30周年を迎えました。

「故きを温ねて新しきを知る」町の歴史・文化の拠り所である資料館について、あらためてご紹介します。

資料館の見どころ

松川町資料館の特徴は「町の歴史が一目でわかる」ところではないでしょうか。展示ホールから常設展示室まではすべてワンフロア。ぐるりと一周すれば、旧石器時代から近代まで町の歴史を通史的に見ることが出来ます。また、縄文時代の復元住居をはじめ、古墳の石室や城跡模型、民家の復元展示など、大型の模型等が多く展示されているのも見どころの一つです。難しい説明文ばかりでは何だかつまらない…という方にも、それぞれの時代の雰囲気を見て、想像して楽しんでいただける展示となっています。



数ある展示品のなかでもイチオシの展示品はこちら。

- ①松川町最古の遺物「北の城遺跡出土 槍先型石器」
- ②日本で3つだけ!?「のっぺらぼうの顔面把手付土器」
- ③長野県宝「円満坊阿弥陀如来坐像」(レプリカ)

そのほか、年に3回ほど様々なテーマで企画展を開催しています。こんな展示が見たい！など町民の皆さんからのご要望もお待ちしております。

お楽しみコーナー

展示ホールには、子どもからお年寄りまで楽しめる文化財パズルや資料館クイズなどのお楽しみコーナーもあります。

展示ホールをご利用ください！



資料館の展示ホールは町民の皆さんの創作活動の発表の場としてご利用いただけます。ホール利用の際は展示ケースや展示パネル等、各種備品の貸し出しもいたします。あなたのすてきな作品を資料館で展示してみませんか？

展示のご希望は資料館窓口までお申し付けください。

こんな時は資料館へ！

資料館では、古文書や古写真、古い道具など、地域の資

す。クイズは全問正解すると特製しおりをプレゼント！放課後に資料館へ来てくれる小学生の皆さんにも大好評です。ぜひ挑戦してみてくださいね。



文化財パズル



古文書収蔵庫の様子

令和5年度は町の歴史や文化を楽しく学べる講座も企画しています。どうぞご期待ください。

皆さんのご来館をお待ちしています。

料を収集・保存しています。捨ててしまう前にぜひ一度ご相談ください。



公民館編集部員
細江 彩さん

館報の編集部員募集記事を見て、自分から編集部の門を叩いた細江さん。趣味でエッセイを書いたり、俳句を詠んだりと文字や文章を書くのが好きだったこともあり、募集記事が目にと留まったそうです。

ほど前に松川町に移住をされました。松川町の印象については、「実家の風景に似ているけど、住みやすさが段違い。松川町は住みやすい。せっかく縁のあった土地、編集部をきっかけに松川町のことをもっと知りたい。」と仰っていました。

入部後は積極的に様々な活動に参加していただいています。部員のみなさんとの何気ない雑談やこぼれ話を聴けるのがたまらなくうれしいと語ってくれました。

細江さんはもとも千葉県の出身です。結婚を機に4年

編集部として、「読み物としておもしろい記事を書いていきたい。記事を書く際には、報告だけの誌面にならないよう、おもしろいニュアンスをにじみだせるよう気を付けていきたい」と今後の意気込みを語ってくれました。謙

町内館長主事会を振り返って

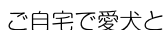
3月3日(金)に、町内公民館館長主事会が開催されました。各地区公民館の事業報告では、コロナ禍での苦悩が多く聞かれましたが、それでもなんとか事業を実施しようと奮闘する役員のみなさんのお話を聞き、本当に頭の下がる思いでした。今年度は公民館活動も本格的に戻り始めていくはずです。

しかし、そのような希望を

感じる一方で、現在の公民館活動には様々な課題が山積していることもまた事実です。生東地区公民館では、地区の方々による話し合いの結果、負担軽減や担い手不足等の為、令和5年度から地区公民館を休館することとなりました。公民館で行っていた事業は、別の形で継続できるように模索していくとのことです。

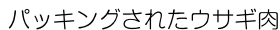
また、中央公民館では主事

遜されていますが、706号で人生初の登山に挑戦した「小八郎登山にいつてきました!」や710号の「鳥獣戯画」の記事は細江さんの執筆です。このほかにもこれまでとてもユニークな記事を書いてくれており、今後も編集部での活躍が期待されます!これから取材や原稿の依頼などみなさんのところへお伺いする機会も増えてくるかと思えます。その際はよろしくお願ひいたします!



新書号で、干支であるウサギの特集を掲載しました。その中で、ウサギは食用とされていた時代があり、それは「ごちそうであった」という内容があつたかと思ひます。

「現代においてウサギ肉を食べることはそうそう無いはず！せつかくなら自ら実験台となり、感想を町の皆さんに伝えよう！」ということ、編集部でウサギ肉を調達し、実際に食べてみました。



パックされた見た目は、少し肉が細かいかな？と感じるもののよくスーパーでみかけ

うさぎの肉
食べて

るお肉と変わりありません。
ひとつは普通の物、もう一つは味付きで山椒の実が入ったものです。



→ 実際に焼いている様子です。

調理中も特に普通の肉と変わらないう印象でした。

さて、実際のお味ですが、

トリの胸肉のような、筋繊維がしっかりした肉という印象。ぱさぱさかと思いきや、意外と脂を感じました。

噛むといつも食べているお肉とは異なる匂いを感じますが、気になるほどではなく、山椒が入っていた方は臭みも感じませんでした。

みなさんも、興味があればぜひ一度ご賞味ください。



※希少種情報のためネット上での掲載は行いません。

一緒に公民館報を作ませんか？

中央公民館では、本紙“公民館報まっかわ”を一緒に作成してくれる仲間を募集しています。

経験・スキル・年齢 不問！

ご興味のある方は、松川町中央公民館（36-2622）まで！ご連絡お待ちしております！

お母ちゃん

「お母ちゃん!! 新聞どこ? 新聞はー?」

今から53年前の3月半ば。いつもなら昼頃までダラダラしている私が、早起きして家中をバタバタと大騒ぎで走り回る。目的は、新聞紙面で発表される高校入試の合格者氏名。希望の高校まで電車に乗って見に行く。くも無く、今なら当たり前の車も父の仕事専用で大切な物。なので新聞に頼って探すと父が熱心に見ている。いつもは興味も示さない新聞を私に奪い取られ呆然とする父。

それから親子で目を皿のようにして探したけれどもどこにも無い! なんて? 発表の紙面は? 必死にバタバタする私に向かって母が一言。「信毎じゃないで出たらんら」エッ? 信毎じゃないって? この日初めて知った我が家の新聞:「讀賣新聞」、全国紙。そりゃあ出てるわけないけど、伊那大島駅の売店で買ってきた信毎で、大喜びするまでの時間の長かったこと。

あれから半世紀経って、結果は指先ひとつで検索できる時代になった。でも、喜びを感じるのはいつの時代も一緒。新しい服に身をつつみ一歩踏み出した若者達に幸あれ。(宮下和子)

公民館報

「まっかわ」

第713号

令和5年4月15日

発行所 松川町公民館

責任者 山崎 隆

編集人 公民館編集部

Tel 36-2622

e-mail: ckouminkan@town.matsukawa.lg.jp

飯田市上郷黒田121

印刷所 龍共印刷株式会社

再生紙を使用しています。